

北海道博物館の利用者満足度

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (4) ふるさとの歴史・文化の発信と継承
- 小項目(政策の方向性) ■北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承

【何を測る指標か】

道民の歴史・文化への親しみ度合いを測る指標

【定義・算出式】

北海道博物館の利用者に対して行うオーディエンス・リサーチ(利用者調査)で、施設全般に関して「満足」と回答した人の割合
 ・北海道博物館は、北海道開拓記念館(昭和46年開館)と道立アイヌ民族文化研究センター(平成6年開所)という2つの道立施設を統合して、平成27年に新たに開設された、北海道の自然や歴史・文化を広く紹介する施設。

【出典】

北海道博物館調査、毎年調査、概ね4月公表

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
 平成25年度(2013年度) 65.8%(北海道開拓記念館の実績のため、参考値)

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 80.0%以上を維持

<目標値設定の考え方>

北海道博物館を核として地域の博物館なども連携し、本道ならではの歴史や文化を次世代に継承し、発信する取組を推進することにより、より利用者の満足度を高めて80%とすることを目標としている。

【③実績値】 ※「実績値」は令和4年(2022年)7月1日時点での最新の統計数値

令和3年度(2021年度) 100.0%

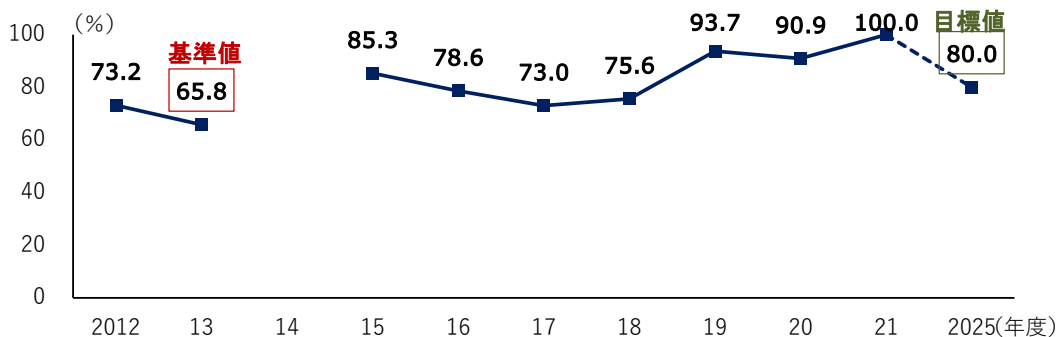
<達成度合の分析>

施設整備面を含め改善すべき点は多いものの、提供している総合展示、企画展示、教育普及事業の内容、施設環境、利用者サービスなどが、概ね高い水準で維持されているものと推定される。

●データ

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
割合	73.2	65.8	-	85.3	78.6	73.0	75.6	93.7	90.9	100.0
		基準値								実績値

※平成25年度(2013年度)までは北海道開拓記念館の実績のため参考値。平成27年度(2015年度)から北海道博物館の実績。
 ※平成26年度(2014年度)は、リニューアル工事につき年度を通じて閉館していたことから、調査は実施していない。



赤れんが庁舎入館者数

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (4) ふるさとの歴史・文化の発信と継承
- 小項目(政策の方向性) ■先人から受け継いだ財産を活かした新たな展開

【何を測る指標か】

赤れんが庁舎を芸術文化等の情報発信拠点として活用する効果を測る指標

【定義・算出式】

赤れんが庁舎の年間の入館者数

【出典】

北海道総務部調べ、毎年調査、4月確定

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
平成26年度(2014年度) 51万人

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 81万人

<目標値設定の考え方>

道民共有の貴重な財産である「赤れんが庁舎」の積極的な活用等により、道外からの観光客の増加の目標と同程度の割合(約59%増)で入館者数を増加させることをめざし、目標値を設定している。

【③実績値】 ※「実績値」は令和4年(2022年)7月1日時点での最新の統計数値

令和4年度(2022年度) -

<達成度合の分析>

令和元年10月から改修工事のため閉館しており、入館者数の把握が不可能となっている。

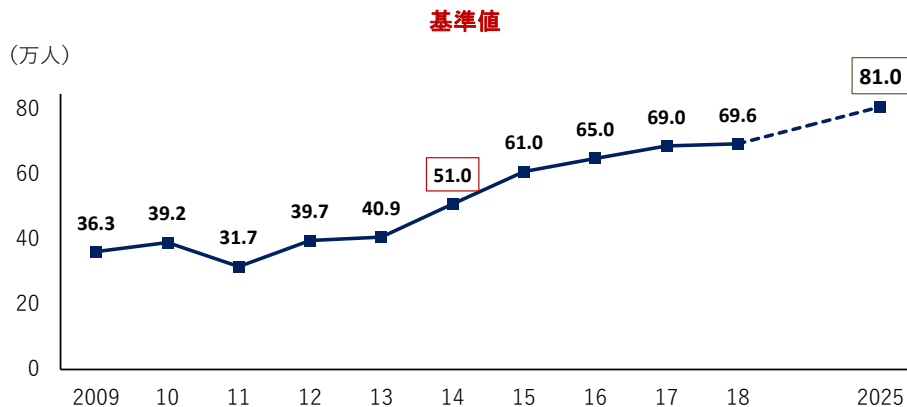
●データ

(単位: 万人)

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
入館者数	36.3	39.2	31.7	39.7	40.9	51.0	61.0	65.0	69.0	69.6

基準値

目標値



文化会館1館あたりの年間入館者数

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3人・地域
- 中項目(政策の柱) (4)ふるさとの歴史・文化の発信と継承
- 小項目(政策の方向性) ■生活に潤いと豊かさをもたらす芸術文化の振興

【何を測る指標か】

道内の文化活動の活性化や充実度合を測る指標

【定義・算出式】

道内全ての文化会館における1館あたりの延べ入館者数

【出典】

文化振興課調査(毎年)

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

令和3年度(2021年度) 32千人

【②目標値】

目標年:令和7年度(2025年度) 目標値:63千人

<目標値設定の考え方>

本指標は、コロナ禍の影響がない平成30(2018)年度時点で道の数値を上回っていた都道府県立施設の平均値78千人を目標値とし、目標年度(令和9(2027)年度)までに達成することとしている北海道文化振興指針の数値目標を参酌して設定。

総合計画における目標値は、令和7年度に合わせて相関式により算出した。

【③実績値】 ※「実績値」は令和5年(2023年)3月31日時点での最新の統計数値

(初年度のため実績なし)

<達成度合の分析>

—

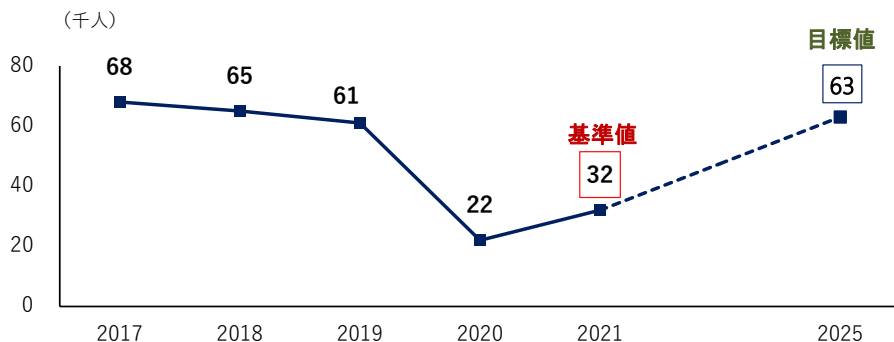
●データ

文化会館1館あたりの年間入館者数の推移

(単位:千人)

年度	2017	2018	2019	2020	2021
入館者数	68	65	61	22	32

基準値・実績値



本道の成人の週1回以上のスポーツ実施率

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (5) 世界に飛躍するスポーツ王国北海道の実現
- 小項目(政策の方向性) ■ 地域スポーツ活動の推進と環境の充実

【何を測る指標か】

地域スポーツ活動の推進状況を測る指標

【定義・算出式】

道内の成人のうち、週に1回以上スポーツをする人の割合

【出典】

北海道環境生活部「スポーツに関する実態調査」、隔年調査、概ね調査年の翌年10月公表

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
平成26年度(2014年度) 59%

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 65%

<目標値設定の考え方>

ライフステージに応じた地域スポーツ活動を推進することにより、成人のうち3人に2人程度が週1回以上スポーツを行うことをめざし、目標値を設定している。

【③実績値】 ※「実績値」は令和4年(2022年)7月1日時点での最新の統計数値

令和3年度(2021年度) 62%

<達成度合の分析>

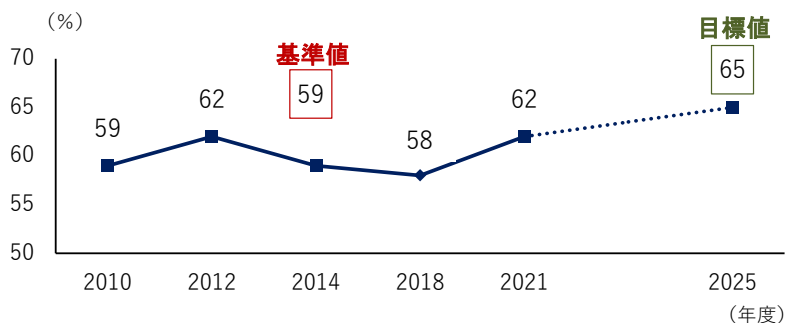
目標値を上回る実施率となり、これまでのスポーツに親しむ機会の創出に向けた取組の効果が現れたものとする。

●データ

年度	2010	2012	2014	2018	2021
実施率	59	62	59	58	62

(単位: %)

基準値 (2014年度) 59% 実績値 (2021年度) 62%



本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3人・地域
- 中項目(政策の柱) (5)世界に飛躍するスポーツ王国北海道の実現
- 小項目(政策の方向性) ■世界の舞台で活躍するトップアスリートの育成

【何を測る指標か】

世界の舞台で活躍するトップアスリートの育成状況を測る指標

【定義・算出式】

本道出身者で、夏季・冬季オリンピック及びパラリンピックに出場した選手の数・本道出身者とは、

- ①大会報告において出身地を「北海道」としている
- ②出場時に北海道内の学校や企業に所属している選手のこと。

【出典】

北海道環境生活部調べ、大会ごとに調査、確定

●指標の達成状況

【①基準値】※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

- 本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数
夏季30人、冬季93人
(夏季オリ22人 R3(2021)、夏季パラ8人 H28(2016)、冬季オリ77人、冬季パラ16人 H10(1998))
- 本道出身のメダル獲得者数
夏季11人、冬季15人
(夏季オリ8人 R3(2021)、夏季パラ3人 H28(2016)、冬季オリ10人 R4(2022)、冬季パラ5人 H22(2010))
- 本道出身の金メダル獲得数
夏季2個、冬季7個
(夏季オリ2個 R3(2021)、夏季パラ0個、冬季オリ4個 H10(1998)、冬季パラ3個 H10(1998))
- 本道出身のメダル総獲得数
夏季9個、冬季15個
(夏季オリ6個 R3(2021)、夏季パラ3個 H20(2008)・H28(2016)、冬季オリ8個 H10(1998)・R4(2022)、冬季パラ7個 H10(1998))

【②目標値】

目標年: 令和7年(2025年) 目標値: 過去最高基準

<目標値設定の考え方>

戦略的な選手強化や指導者の充実により競技力の向上を図ることなどにより、多くの本道出身選手がオリンピック・パラリンピック競技大会に出場して活躍することをめざし、目標を設定している。

【③実績値】※「実績値」は令和5年(2023年)3月31日時点での最新の統計数値

- 本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数 冬季 北京60人(オリ58人、パラ2人) 令和4年(2022年)
- 本道出身のメダル獲得者数 冬季 北京10人(オリ10人、パラ0人) 令和4年(2022年)
- 本道出身の金メダル獲得数 冬季 北京2個(オリ2個、パラ0個) 令和4年(2022年)
- 本道出身のメダル総獲得数 冬季 北京8個(オリ8個、パラ0個) 令和4年(2022年)

<達成度合の分析>

令和3年(2021年)の東京大会では、前回(リオデジャネイロ)大会以上の29人が出場。令和4年(2022年)の北京大会では、前回(平昌)大会の72人を下回ったが、前々回(ソチ)と同数が出場。競技力向上に向けた様々な事業による効果が着実に現れているものと考えられる。

●データ

【夏季オリンピック】

開催年	開催地	出場者数	メダル獲得者数	金メダル獲得数	メダル総獲得数
2000	シドニー	8	1	0	1
2004	アテネ	14	4	1	3
2008	北京	13	4	1	4
2012	ロンドン	13	3	0	2
2016	リオ	12	2	0	2
2021	東京	22	8	2	6

過去最高水準	22	8	2	6
--------	----	---	---	---

【冬季オリンピック】

開催年	開催地	出場者数	メダル獲得者数	金メダル獲得数	メダル総獲得数
1998	長野	77	7	4	8
2002	ソトレイク	43	2	0	2
2006	トリノ	40	0	0	0
2010	バンクーバー	54	3	0	2
2014	ソチ	58	4	0	3
2018	平昌	65	9	2	6
2022	北京	58	10	2	8

過去最高水準	77	10	4	8
--------	----	----	---	---

【夏季パラリンピック】

開催年	開催地	出場者数	メダル獲得者数	金メダル獲得数	メダル総獲得数
2000	シドニー	5	1	0	1
2004	アテネ	3	1	0	1
2008	北京	3	1	0	3
2012	ロンドン	4	1	0	1
2016	リオ	8	3	0	3
2021	東京	7	1	0	1

過去最高水準	8	3	0	3
--------	---	---	---	---

【冬季パラリンピック】

開催年	開催地	出場者数	メダル獲得者数	金メダル獲得数	メダル総獲得数
1998	長野	16	4	3	7
2002	ソトレイク	7	0	0	0
2006	トリノ	5	0	0	0
2010	バンクーバー	8	5	1	3
2014	ソチ	2	2	2	3
2018	平昌	7	0	0	0
2022	北京	2	0	0	0

過去最高水準	16	5	3	7
--------	----	---	---	---